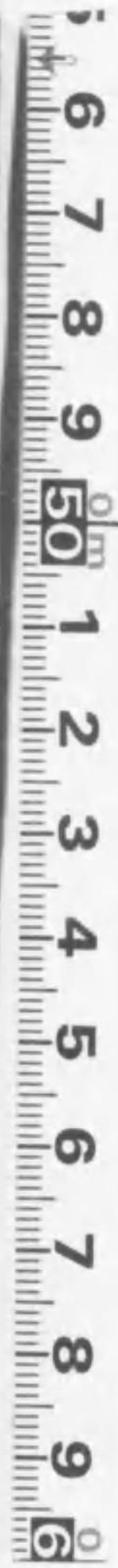


始



302

221

初成卿高踪倭漢朗詠抄



245265



漢朗詠抄



霞

糺沙茶只三系許誇樹雲如疎半如疎着

晴り赤さ々々けけわわ！！ううささささううららみみ

ううささののわわまたまたににももわわささららににななわわ
三春日
八丸

ははららううほほみみささ々々わわいいははここみみぎぎのの

ずずののややららににゆゆよよははららわわつつ

梅

誰之春色從東到
露暖南枝花始開

普三六

いとうとたしぬくーにうきうーわるやあわ

いふものむめはくしととくにきうり 安徳彦彦

わつせいふみきむむいあうひーしむのこま

それんもほゆいのれを素人

紅梅

仙回風生空皴雪野鑪火暖未揚煙 齋名

よきぬらうくわうのいそせむいさむれ花

いりふもむむもこひとそさうる友名

いりふもむむはあひもこれすむのいり

いりふもむむはあひもこれすむのいり
華山行山歌

落花

経弓風細臭檻舞の楊娃袖尻吐流 昔六
科之雁さるるぬれくちまの掃はせしぞ

アからアにらめんきつ雅社ね雪下らまを
ぶれものさきれみやけにあらはれの
きんせうかあまよよあきれ



藤

紫藤花露庭殊むろ葉み竹柄中堂をるを
相見

た、のうらにそ、くさくさ、ふ、ちれ、し

て、ゆ、む、み、わ、み、の、あ、縄丸

あ、よ、け、な、さ、は、の、な、さ、よ、あ、れ、く

も、か、な、さ、ふ、ち、の、あ、よ、し、ち、ふ、れ、き、く

款冬

書云有冬相收檢詔帛無文未奉行

係胤

うけらぬくみぬひうきたにうきみら

ていよやちるんやまのまぬ

厚見ぬ

わるよのむつぬけひるんまちり

ぬらちんまのこまよ

魚巻

納涼

池冷水無三伏夏杉高風有一夜暑秋

すしやとらせむらしとにほちよれ

はあふさふあせらるにぬいのきれ

したうらみらにあふさふあせられ

むきふいつものうさるは中務

郭公

一ある山を暖むるが可踏水管杖字の中洋

さうよかみたはうのれよよかむもたは

たをぬるのこむのしきりけき明書

さうよかむたはうのれよよかむもたは

さうよかむたはうのれよよかむもたは

立秋

鷄漸散同秋色少鯉常鱗香晚秋後胤

あしこねとあまのけさやうにみこねと

うせのたともおたもらうれねる秋行

うもははくよとのおえまよしのきもち

るあしこねとあまのけさやうにみこねと

月

郷渡教行正成客棹歌一曲釣漁舟

保胤

あよみうらうらうけみれきすのりみ

うたのやまにそらうらうら

安政仲丸

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

菊

葉着心蕊尙權紫はな葉芽洞力吐露中 着三六

ひせいふのこもよけうりあくみくもは

あまらほし葉あまたれ々系 敏行

いんありにやなやなむはうもの

おまよまがらふ 躬恒

萩

曉露鹿鳴花始茂百般攀折一時情

うづもむむいさむいあきんむい

にきれむらうりもたぐうゆみせ

あまのむらうりもたぐうゆみせ

あまのむらうりもたぐうゆみせ

紅葉

か物初醒 杉浦色 餘波合カ 錦江あり

しらつゆも ねも くらも あり

さくら花の いらす くらよ に あり

むらいれ とも あり

れきり あり

落葉

落葉の聲を聞くは
秋の深き時なり
あはれなるも
心は静か
なり

あはれなるは
もみちけな
すつつか
つらよ
れや

あはれなるは
もみちけな
すつつか
つらよ
れや

あはれなるは
もみちけな
すつつか
つらよ
れや

あはれなるは
もみちけな
すつつか
つらよ
れや

鹿

暗遣食草身色變更随加草徳風来

白鹿
紀

とみちをねらふけのやうにきん

ふはあひまはらうかあはるん
は五

ゆもはらうまらうのたまたまの

れまのうらまはあはるん
き

霧

陸愁夕霧堆人枕猶愛胡雪出馬鞍は霜云

うはもりのやゆいそふあやしきぬれハ

あらよきあふれやまはみまけつゆき文

たうしあせうしんたふれさうあふりの

さほのやまらまじりすけらむ友男

雪

雪は白く花は紅く
山は高く水は清く
雲は高く鳥は高く

雪は白く花は紅く
山は高く水は清く
雲は高く鳥は高く

好年引多社名
取取中下り者好

不和 然尔不氣
与以者 述哉世
也免

冬日 斗分今
幸也 雅海
友 岩

佛名

香火一燭燈一莖白及夜礼佛名經白

香自祿心無用火也并言孝子因是普

阿羅堂滿乃東々々母久々々香波香

久々々母々々法美毛深有羅有奈

本のや
——
志のねらむ 魚巻

風

斑
暗裁扇直
諱尚
あ子
熱車
ふ徒
還保胤

あ
よ
う
ま
の
ふ
ら
よ
う
け
と
も
は
わ
る
ふ

あ
ま
た
し
ら
は
た
と
う
て
あ
ま
たカ
タ

あ
の
う
じ
あ
り
あ
ら
わ
る
の
は
よ
う
に
る

よ
し
み
ら
ふ
よ
ら
た
る
も
や
り
た
ら
う
は
せ

松

含雨嶺松天更霽燒秋林葉火還寒 江

とよけなるさうれみんしとらるれ

もいまひしほのいろよきりなわ 源宗子

われみそとひしなうりねすみよき

れきしのひめさういさよつわらも

草

兼山有る諦猶露傳聖世々人詠流海保汎

松はあらまのまらちしんをたいね

松はあらまのまらちしんをたいね

やうほんしんをたいね

れをいしんをたいね 素

鶴

川漢色をみぬ枕着和風傳入子伝原順

わ。け。う。ー。ー。ほ。み。ら。ら。ー。ー。ー。ー。

た。み。あ。ー。ー。ー。ー。ー。ー。ー。わ。さ。

木。ほ。ふ。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。

ら。け。ふ。ー。ー。ー。み。あ。り。な。ら。ら。ら。ら。

水 付漁父

日脚波平孤嶋暮風頑岸遠客帆寒 佐幹

ひしよとよもそぬの？みとならるるみら

はらもううとをなやとともさといふん 中務

みれいそみとたのしやなをまみりよ

にふそひすあうはうけのみる 中務義孝

山家

獨石暮雲生枕上
嶺曉月出忘中
直務

やまのむら雲の生枕の上
嶺の曉月出忘中

あれよのころのむら雲の生枕の上
嶺の曉月出忘中

やまのむら雲の生枕の上
嶺の曉月出忘中

やまのむら雲の生枕の上
嶺の曉月出忘中

田家

蕭索村風吹笛更又意涼隣月栲石椂相如

きららのよきひともかろせりしまなま

はげまゝしるむけろくくろ

らよまぢか、はかにしりふくたはるし

あめにかさへんせりたふらなむ

山寺

泉飛而浣おる岡着葉落凡吹多相秋 相如

やまぐらゝのりうあひのぬのゝきゝよ

ふふとたれわとまゝくあつたがよ

ふのちとあすふゝとまをばあだのう

らきぬみうとむたにたりにらうふ 花の丘

餞別

多し浮生期は會予出石火向風鼓首

松もひやう... けりわはさわ... さ

たより... せんみ... の... せ正務

か... のわ... あ... せ

い... 人... せ... せ

行様

孤館宿時凡帯雨素枕陶更又小逢言 汗渾

これ、いさあ、いせ、いせ、のあま、いせ

いさ、いせ、いせ、いせ、いせ、いせ、いせ、いせ

いせ、いせ、いせ、いせ、いせ、いせ、いせ、いせ

いせ、いせ、いせ、いせ、いせ、いせ、いせ、いせ

帝王

刑鞭補朽蠹空去諫鼓苔深鳥不驚 國風

たうよけつよさるやこのもれあゆこし

わいおまをいころとせらやふれをれ

ちりわれとまゝくはつらせまよに分わ

地をせのらけまなをこのまむ 少軒天皇
法製

老人

浦あり、いん亦あり種方系け下り母くを
ふく見深車分下り故心し種ねお苑

種下り志帰作地喜社

いし、う、みまはよせありよのたうら

たいにさし、あ人しなわれをぬ頼

懷舊

從新良本其楷欵造也甘棠勿剪芳詒美林

いづ一のながみーみくらわらわれとも

よのらなみーみまきま

よのらなみあまーはたがよみと

なまけはたはなみーなまけはたはなみ

祝

長生殿 亥春秋 富不老 門前日月遲
保胤

わさよみけちよるやちよにさけい

しけいさほとなりてふのむすき

よらつよとみそこのやまふよけり

つあめれしよふこのしるし

無常

雖觀秋月波中影未遁春花夢裏名に

よのしづさをたづろくしるむあさは

らけこよゆくのあみしらみは

てよむすぶみつるやねるつよみ

れあうしすみふまふありたれ貫し

和漢朗詠抄釋文

霞

鐵沙草只三分許 跨樹霞纒半段餘 菅

昨日こそとしはくれしかはるがすみ かすがのやまにはやたちにつり
はるがすみたてるやいづこみよしの、よしの、やまにゆきはふりつゝ
立春日 人丸

梅

誰言春色從東到 露暖南枝花始開 菅三品

いにしとしねこじにうゑしわがやどの わかきのむめはななきにけり 安倍廣庭
わがせこにみせむとおもひしむめのはな それともみえずゆきのふれれば 赤人

紅梅

仙白風生空蔽雪 野鐘火暖未揚煙 齊名

きみならでたれにかみせむいめの花 いろをもかをもしるひとぞしる 友則
いろかをばおもひもいれずむめのはな つねならぬよによそへてぞみる 華山院御製

落花

離閣鳳翎憑檻舞 下樓娃袖願階籬 菅三品

さくらちるこのしたかぜはさむからで そらにしられぬ雪ぞふりける 貫之
とのもりのとものみやつこ心あらば このはるばかりあさぎよめすな

藤

紫藤露底殘花色 翠竹煙中暮鳥聲 相規

たごのうらにそこさへにほふぢなみを かざしてゆかむみぬひとのため 繼丸
ときはなるまつのなだてにあやなくも かゝれるふぢのさきてちるかな 貫之

歎 冬

書窓有卷相收拾 詔紙無文未奉行 保胤
かはづなくかみなびがはにかけみえて いまやちるらんやまぶきのはな 厚見女皇
わがやどのやへ山吹はひとへだに ちりのこらなんはるのかたみに 兼盛

納 涼

池冷水無三伏夏 松高風有一聲秋 英明
すゞしやとくさむらごとにとちよれば あつさぞまさとこなつのはな
したくゝるみづにあきこそかよふなれ むすぶいづみのてさへすゞしき 中務

郭 公

一聲山鳥曙雲外 萬點水螢秋草中 許渾
さつきやみおぼつかなきにほととぎす なくなるこゑのいととほるけさ 明香王子
ゆきやらでやまおくらしつほととぎす いまひとこゑのきかまほしさに 公忠

扇

不期夜漏初分後 唯翫秋風未至前 菅三品

あまのがはくべすしきたなばたに あふぎのかぜをなほやかさまし 七夕扇合中務

あまのがはあふぎのかぜにくもはれて そらすみわたるかさゝぎのはし 同前元輔

立秋

鷄漸散間秋色少 鯉常趨處晚聲微 保胤

あきぬとめにはさやかにみえねども かぜのおとにぞおどろかれぬる 敏行

うちつけにもものぞかなしきこのはちる あきのはじめになりぬとおもへば

月

郷涙數行征戌客 棹歌一曲釣漁翁 保胤

あまのはらふりさけみればかすがなる みかさのやまにいでしつきかも 安部仲丸

しらくもにはねうちかはしとぶかりの かげさへみゆるあきのよのつき

菊

蘭蕙菀嵐摧紫後 蓬萊洞月照霜中 菅三品

ひさかたのくものうへにてみるきくは あまつほしとぞあやまたれける 敏行

こゝろあてにをらばやをらむはつしもの おきまどはせるしらぎくのはな 朝恒

萩

曉露鹿鳴花始發 百般攀折一時情

うつろはむことだにをしきあきはぎに くれぬばかりもおけるつゆかな
あきのゝのはぎのにしきをふるさとに しかのねながらうつしてしかな
元輔

紅葉

外物獨醒松澗色 餘波合力錦江聲 以言

しらつゆもしぐれもいたくもるやまは したばのこらずいろづきにけり 貫之
むらくのにしきとぞみるさほやまの はゝそのもみぢきりたゝぬまは 清正

落葉

隨嵐落葉合蕭瑟 濺石飛泉弄雅琴 順

あすかゞはもみぢばながるかつらぎの やまのあきかぜふきぞしくらし 人丸
かみなづきしぐれとゝもにかみなびの もりのこのはゝふりにこそふれ

鹿

暗遣食苹身色變 更隨加草徳風來 白鹿 紀

もみぢせぬときはのやまにすむしかは おのれなきてやあきをしるらん 能宣
ゆふづくよをぐらのやまになくしかの こゑのうちにやあきはくるらむ 貫之

霧

雖^モ愁^フ夕^ト 霧^ノ埋^ム人^ノ枕^ヲ 猶^モ愛^ム朝^ノ雲^ヲ 出^ル馬^ノ鞍^ヲ 江相公

かはぎりのふもとをこめてたちぬれば そらにぞあきのやまはみえける 深養父
たがためのにしきなればかあきじりの さほのやまべをたちかくすらむ 友朋

雪

みよしのゝ山のしらゆきつもるらし ふるさとさむくなりまざるなり 是則
ゆきふればきごとにはなぞさきにける いづれをむめとわきてをらまし 友朋

佛名

香火一爐燈一盞 白頭夜禮^{佛名經} 白
香^ハ自^リ禪^心 無^ク用^フ火^ヲ 花^ハ開^キ合^掌 不^レ因^レ春^ヲ 菅
あらたまのとしもくるればつくりけむ つみものこらずなりやしぬらむ 兼盛

風

班^ハ姫^ノ裁^チ扇^ヲ 應^ニ誇^ハ尚^ス 列^ハ子^ノ懸^キ車^ヲ 不^レ往^キ還^ル 保胤
あきかぜのふくにつけてもとはぬかな をぎのはならばおとはしてまし 中務
ほのくぐとありあけのつきのつきかけに もみぢふきおろすやまおろしのかぜ

松

含^ノ雨^ノ嶺^ノ松^ハ天^ニ更^ニ齊^シ 燒^ク秋^ノ林^ノ葉^ハ火^ニ還^ル寒^シ 江

ときはなるまつのみどりもはるくれば いまひとしほのいろまさりけり 源宗千
われみてもひさしくなりぬすみよしの きしのひめまついくよへぬらむ

草

華^ニ山^ニ有^リ馬^ノ蹄^ノ猶^レ露^シ 傳^ニ野^ニ無^ク人^ノ路^ノ漸^ク滋^シ 保^ノ風

おほあらしのもりのしたくさおいぬれば こまもすさめずかるひともなし
やかずともくさはもえなむかすがのを たゞはるのひにまかせたらなむ 忠岑

鶴

叫^ビ漢^ノ遙^ク驚^ニ孤^ノ枕^ノ夢^ヲ 和^シ風^ニ漫^ク入^ル五^ニ絃^ノ彈^ム 順

わかのうちらしほみちくらししかたをなみ あしべをさしてたづなきわたる
おほぞらにむれたるたづのさししながら おもふこゝろのありげなるかな

水 付 漁 父

日^ノ脚^ノ波^ノ平^ニ孤^ノ嶋^ノ暮^シ 風^ノ頭^ノ岸^ノ遠^ク客^ノ帆^ノ寒^シ 佐^ノ幹

としごとにはなのかぐみとなるみづは ちりかゝるをやくもるといふらん 中務
みなかみのさだめてければきみがよに ふたゝびすめるほりかはのみづ 曾^ノ彌^ノ義^ノ忠

山家

觸石春雲生枕上 銜嶺曉月出窓中 直幹

やまざとはものさびしかることそあれ よのうきよりはすみよかりけり
やまざとはふゆぞさびしさまさりける ひとめもくさもかれぬとおもへば

田家

蕭索村風吹笛處 荒涼隣月擣衣程 相如

はるのたをひとにまかせてわれはたゞ はなにこゝろをつくるころかな
ときすぎばさなへもいたくおいぬべし あめにもたごはさはらざらなむ

山寺

泉飛雨洗聲聞夢 葉落風吹色相秋 相如

やまでらのいりあひのかねのこゑごとに けふもくれぬときくぞかなしき
このもとをすみかとするればおのづから はなみるひとになりけるかな 花山院

餞別

欲下以浮生二期後會 還悲石火向風敲 菅

おもひやるこゝろばかりはさわらじを なにへだつらんみねのしらくも 直幹
としごとにはるのわかれをあはれとも ひとにおくる人ぞしりける 菅原元眞

行 旅

孤館宿時風帶雨 遠帆歸處水連雲 許渾

ほのくくとあかしのうらのあさぎりに しまがくれゆくふねをしぞおもふ 人丸
わだのはらやそしまかけてこぎいでぬと 人にはつげよあまのつりふね 野

帝 王

刑鞭蒲朽蝨空去 諫鼓苔深鳥不驚 國風

なにはづにさくやこのはなふゆごもり いまはるべとさくやこのはな
ちりぬれどまたくるはるはさきにけり ちとせのちはさみをたのみむ 小松天皇
御製

老 人

ますかゞみそこなるかげにむかひゐて みるときにこそしらぬおきなにあふこちすれ
いづこにかみをばよせましのなかに おいをいとはぬ人しなれば 爲頼

懷 舊

促齡良木共 摧歎 遺愛甘棠勿剪謠 美材

いにしへのなかのしみづぬるけれど もとのこゝろをしるひとぞくむ
よのなかにあらましかばとおもふひと なきはおほくもなりにけるかな

祝

長生殿裏ムヘ春秋富リ 不老門前ムヘ日月遲シ 保胤

わがきみはちよにやちよにさどれいしの いはほとなりてこけのむすまで
よろづよとみかさのやまぞよばふなる あめのしたこそたのしかるらし

無 常

雖モ觀メ秋ノ月ノ波ノ中ノ影ヲ 未ダ道シ春ノ花ノ夢ノ裏ノ名ヲ 江

よのなかをなにしたとへむあさぼらけ こそゆくふねのあとのしらなみ
てにむすぶみづにやどれるつきかげの あるかなきかのようにこそありけれ 貫之

沙彌
滿誓

302
221

エト5265
(奥付新)

(エト5265)

抄詠朗淡倭

第一卷
不許強製

昭和十年二月十四日印刷
昭和十年二月十七日發行

正價金壹圓五拾錢

發行兼印刷者 法書會出版部

東京市下谷區上野恩賜公園地
代價七條

印刷所 金屬版印刷所

東京市神田區花房町五番地(秋葉原驛前)

發行所 西東書房

電話下谷六七八八番
攝津口座東京七三七番

終

